

館報

あけまして  
おめでとう



1 月号

# やまがた

No. 801

令和5年  
(2023年)



## 子どもたちの“学びたい”を育む ひらいじゅんこ 平井 淳子さん (小坂)

学習能力の基礎である読解力や意欲を引き出す幼児教育に携わって20年の経験を持つ淳子さん。子どもたちの個性を大切にしながら“学びたい”という気持ちや“できた”という自信を育む学習法を実践しています。

淳子さんも4人の子育てを経て、子育ての悩みや不安を持つ親に寄り添いたいという想いから、昨年4月に自宅で、乳幼児から小学生までを対象とした学習塾を開きました。「すべての子どもたちや親が笑顔になれるよう、向き合っています」と話す淳子さんの教室には、子育ての相談や子どもたちの楽しそうな笑い声が聞こえています。

(12月6日 自宅『よつ葉塾』にて)

働  
姿



上竹田区民の集い

12月11日(日)、上竹田分館主催の『上竹田区民の集い』がトレーニングセンターで行われました。分館行事としては3年振りの開催となる今回、区長の青沼永廣さんは「もうコロナ以前には戻りません。コロナと共にある生活」ということで開催の運びとなりました」と挨拶しました。分館長の古畑徹さんは「ようやく分館の行事ができます。開催を喜びたい」と話がありました。

今回は2部構成で開催され、第1部は彌磨太鼓(増澤靖揮代表・上竹田)による勇壮な演奏、第2部は志青塾の水谷久志塾長(上竹田)による講演が行われました。第1部には社会福祉協議会の介助で車いすの方も参加され、創立10周年を迎えた彌磨太鼓の迫真の姿に心打たれたようでした。第2部では、用意された大人も手こずるほどの小学生の文章問題を、塾長の「イメージで解くことを大事に」との助言で、夢中になって解く参加者の姿が印象的でした。



桜を守る！



12月14日(水)・15日(木)、小坂山口常会にある双体道祖神「山口の丸髭」のすぐ脇にそびえ立つ枝垂れのエドヒガンザクラ(以下、シダレザクラ)の保全剪定作業が行われました。

樹齢300年以上になる老木は腐りが目立ち、安全性の観点から伐採が協議されてきました。地域で長年愛されてきたことや、昔は桜の下で御嶽講のお祭りなどが行われ酒盛りもあつたなどの思い出も数多く、残してほ

しいという声が上ががり、保全という形になりました。

新しい芽や枝を展開させシダレザクラを保存させていく『樹木短縮法』という技法がとられ地上5mほどの高さで整えられました。同日27日(火)には村出身で樹木医の宮原康二さんが腐りのある箇所を殺菌剤と保護のための樹脂を塗り、根がより酸素を吸えるように3ヶ所酸素管を設置しました。

これからもシダレザクラの綺麗な花が見られるように、地域で守られ続けていくのですね。



三九郎 1月7日(土)・8日(日)

年始の恒例行事、三九郎が村内各地で開催されました。新型コロナウイルス感染症第8波の真只中で開催となりましたが、子どもたちの頑張りや笑顔はもろろん、三九郎の炎のゆらめきに心落ちついた人も多かったのではないのでしょうか。今年も良い1年になりますように！



信州ねりんピック 長野県知事賞受賞

9月23日(金)・25日(日)に飯田市の長野県飯田創造館にて、『2022信州ねりんピックク&シニア作品展』が行われました。

この大会は、長野県在住の60歳以上の方を対象に日本画・洋画・彫刻・手工芸・書・写真のジャンルで作品を募り、腕前を競うものです。

この中で、書の部に応募した塩原尚子さん(中大池)の作品が、約50作品の応募の中から最上位である長野県知事賞を見事受賞し、表彰されました。作品は10月に全国大会として行われる「ねりんピック愛顔のえひめ2023」に出展される予定です。おめでとうございます！



塩原尚子さんの作品



# 2023年新春アンケート 飛躍!

～うさぎのようにピョンピョンと飛び越え、躍進できる年になりますように!～



山形村の卯年生まれ人口

令和5年(2023年)1月1日現在  
役場住民課調べ 単位:人

| 生まれ年         | 年齢  | 男   | 女   | 計   |
|--------------|-----|-----|-----|-----|
| 昭和2年(1927年)  | 96歳 | 2   | 13  | 15  |
| 昭和14年(1939年) | 84歳 | 19  | 33  | 52  |
| 昭和26年(1951年) | 72歳 | 72  | 75  | 147 |
| 昭和38年(1963年) | 60歳 | 50  | 54  | 104 |
| 昭和50年(1975年) | 48歳 | 70  | 75  | 145 |
| 昭和62年(1987年) | 36歳 | 53  | 47  | 100 |
| 平成11年(1999年) | 24歳 | 37  | 29  | 66  |
| 平成23年(2011年) | 12歳 | 44  | 30  | 74  |
| 合計           |     | 347 | 356 | 703 |

幅広い世代の皆さんから、2023年に懸ける思いや気持ちをお寄せいただきました。皆さんはどんな年にしたいですか?

**【質問】**

- ① 2023年の抱負や目標は?
- ② 今、ワクワク・ときどきしていることは何ですか?
- ③ 座右の銘  
(大切にしている、または好きな言葉)を教えてください。
- ④ 山形村の素敵なお知らせは? (場所でもOK)
- ⑤ おすすめの料理を教えてください。  
※▽は理由などの補足です。

- ① 明けましておめでとう。体力が続く限り、アウトドア、アバンチュール、釣りをしたい。
- ② ヨーロッパ、アルプスへ行きたいです。
- ③ 「岳」▽健康でありたい、山岳に登りたい。
- ④ 山形村のすべての山やま▽四季の山やまが素敵
- ⑤ ジビエ料理▽食べておいしい。特にイノシシステーキ。



ひろし 宮本 廣さん (小坂)

- ① 新しい友だちを作りたいです。▽5年生になったらクラス替えがあるから
- ② 小学校の金管バンドです。▽新しく3年生が入ってくるから
- ③ 継続は力なり▽習っている卓球クラブの監督が大切にしていて言葉です。
- ④ 山形小学校のシタレザクラ▽春にシタレザクラが点灯されてきれいだから
- ⑤ 長いものほくほく焼き▽学校の調理実習で作って美味しかったから。(山形村といえば長いも!という理由もあります)



ゆうな 上條 結菜さん (中大池)

- ① 体調管理のためのアロマセラピストとして皆さまのお役に立てるよう今年も頑張ります。▽コロナ禍から20代の頃の服作りの仕事を再び始めています。その夢を今年に更に充実させていきたい。
- ② 服作りを通して全国の人と繋がりたい。▽本心に欲しい服作りをして、無駄の無いサステイナブルな社会に貢献したい。
- ③ 雨垂れ石を穿つ▽どんなに微力でも、それを諦めず続けていけばいつの日か努力が実る。
- ④ 美しい自然が多いのに、各方面へのアクセスが良く災害が少ない所。
- ⑤ 発酵料理が好きです。特にヨーグルト、塩こうじ、甘酒は常に作っています。▽体調管理にとっても役立っています。



ゆり 古田 麻由里さん (下大池)

- ① 研修や文献などで仕事の学びを深めていきたい。趣味のピアノを楽しんで演奏したい。▽自分のスキルアップのために積極的に学んでいきたいと思っています。子育てと仕事でなかなかピアノが弾けていないので今年はいろいろな曲にチャレンジしたいです。
- ② 春から娘が幼稚園に入園すること。▽初めての集団生活にやっつけられるのかドキドキでもいろいろな経験をして心も体も大きくなってほしいです。
- ③ 笑う門には福来る▽いつも笑顔を忘れずに過ごしていきたいです。
- ④ 自然がたくさんあるところ▽散歩に行けば季節の草や花、虫などにたくさん出会え、子どもの五感が刺激されてとてもいい環境だと思います。
- ⑤ 我が家の畑でとれたおでん大根を使ったおでんです。▽簡単に作れて体も温まるし、味のしみた大根がとてもおいしいです!



あさみ 千村 麻美さん (小坂)





だいき 古畑 大輝さん (下竹田)

①怪我や病気がかからずに1年を過ごす。▽新型コロナウイルスも流行しているから。

②3月から始まるWBC・侍JAPANの活躍▽自分自身も高校まで野球をやっていたこと。サッカーW杯も盛り上がったので。

③人事を尽くして天命を待つ▽物事において自分ができる限りのことを最大限行いたい人なので(あとは神様に)。

④素の自分に戻れるところ。▽(仕事や遊びから)山形村に帰ってくるのが安心するってことが一番だから。

⑤南松本のステーキ店・塩尻峠にある焼肉屋▽南松本のステーキ店は初めての誕生日に家族で行った思い出の場所。塩尻峠の焼肉屋は単純に美味しいので。

山形村データあれこれ

|     |         |
|-----|---------|
| 人口  | 8,533人  |
| 男   | 4,212人  |
| 女   | 4,321人  |
| 世帯数 | 3,144世帯 |

|     |      |
|-----|------|
| 出生数 | 50人  |
| 死亡数 | 92人  |
| 転入数 | 340人 |
| 転出数 | 353人 |

(役場住民課調べ 12月末現在)

村内における人身事故

|     |     |
|-----|-----|
| 件数  | 15件 |
| 負傷者 | 15人 |
| 死亡者 | 0人  |

(松本警察署調べ 12月末現在)

村内における消防出動

|     |      |            |
|-----|------|------------|
| 火災  | 6件   | (うち1件は非火災) |
| 救急  | 297件 |            |
| 救助  | 3件   |            |
| その他 | 27件  |            |

(松本広域消防局調べ 12月末現在)



たけし 布野 毅さん (下竹田)



①一家全員無事に来年のお正月を迎えること。▽昨年は家族の手術が相次ぎ公私共に大変な1年で、病气やケガに悩まない平和な日常は決して当たり前前のごときではないことを痛感。健康管理に留意し、1年無事に過ごせることが今年の抱負。人生初の人間ドックにデビューしてみたいと思う。

②家族の目を盗んでオートバイで遊ぶこと。▽おじさんになってからリターンライダーとして復活。上を見なければ維持費など、意外とお金が掛からない良い趣味だが、とても危険なところが泣き所。「いい歳して転んでケガできない！子どもが小さいのでまだ死ぬない！」と唱えながら集中して乗るため、「脳の活性化及び、老化予防に効果がある乗り物」として、勝手な持論を展開している(笑)。

③安全第一▽年齢的に人生折り返してしまっただけか、近年はケガや病气、健康診断の結果に常にビクビクしながら生きている。上記の言葉を選んだのは、見るからにホッとさせる4文字だから。

④のどかで平和な農村風景が、心配性の私を心身ともに癒してくれるところ。▽軽トラで買い物に行っても恥ずかしくないところ(笑)。好きな場所は「セブインレブン信州山形店」。気さくな店長さんと、豊富な品揃え。暇があると無意味に買い物に行き、新製品をチェックしてきます。店内調理のカレーパンが近年の個人的メガヒット。

⑤ご飯屋山形村本店の「タルタル山賊焼き定食」。▽ただでも高カロリーな「山賊焼き」にマヨネーズ成分全開のタルタルソースがトッピングされた掬破りの逸品。言うまでもなくこの組み合わせに外れはなく、こってり派には「盆と正月が同時に来た」ような夢の組み合わせ。筆者は「仕事や人生に疲れた時」に同店に起き、「ご飯大盛」でオーダーするのがお約束。

山形村卯年年表

- ◆昭和2年(1927)
  - ・山形郵便局電信電話事務開始
  - ・山形女子青年会結成
- ◆昭和14年(1939)
  - ・消防組は警防団に改組
  - ・永田康一外12名により、小学校にピアノ寄贈
- ◆昭和26年(1951)
  - ・山形中学校校舎増築工事竣工
  - ・公民館図書室開設
- ◆昭和38年(1963)
  - ・本村出身斉藤義美氏、学校及び公民館に対する図書寄贈本年より始まり、以後毎年100冊余り寄贈続く
  - ・清水寺に風力発電設備ができ電灯がとれる
- ◆昭和50年(1975)
  - ・林道大池線完成 延長3780m
  - ・村道舗装に着手、この年6665m予定
- ◆昭和62年(1987)
  - ・B&G信濃山形海洋センター着工
  - ・旧役場庁舎、ふるさと伝承館として再出発
- ◆平成11年(1999)
  - ・トレーニングセンター、バリアフリー化・エレベーター設置
  - ・豪雨災害
- ◆平成23年(2011)
  - ・3/11 東日本大震災 6/30 長野県中部地震
  - ・公民館図書室、山形村図書館として設置
  - ・山形村保育園全面改築工事起工式
- ◆令和5年(2023)



年表の最後は、これを読んでるあなたの手で書き上げてください。今年が良い年でありますように。(参考) 村誌やまがたほか

新春アンケートにご協力いただいた6名の皆さんありがとうございました。村民の皆さんが今年も笑顔で過ごせるそんなお手伝いを、この公民館報ができるよう努めてまいります。本年もよろしくお願いたします。



### 日本刺繍講座 最終回

12月7日(水)、トレーニンングセンターで、日本刺繍講座の最終回が行われました。山形村公民館が主催する『あらざぎ学舎』の一環で、8月より全7回開催されてきました。講師の平野珠恵さん(清水高原)に日本刺繍の基本や模様(なま)の施し方を教わり、巾着袋と額絵の2作品を制作した参加者たち。完成した作品を見ながら「一つひとつ丁寧に教えてもらえた」「みんなでおしゃべりしながら作業ができて、楽しかった」と感想が聞かれました。



桜の模様を施した巾着袋

また、初回から11月までは清水高原文化交流施設あらざぎの庄を会場に活動を行い、窓から覗く清水寺境内の山野草や美しい紅葉の景色も楽しみました。

### 生き生き塾 活動記録

12月20日(火)、トレーニンングセンターで、生き生き塾フラワーアレンジメント体験が行われました。クリスマスにも、お正月にも合う華やかなフラワーアレンジメントを作ることができると好評で、今年で3回目の開催となりました。

講師を務めるフラワーサークル花あかりの松井貞子さん(松本市)による花の種類や扱い方についての説明を熱心に聞き、実際にオアシスという給水スポンジに花材(かざ)を刺していく参加者の皆さん。3年目ということもあり、基本に忠実でありながらも、個性豊かな作品が完成しました。参加者からは、「お正月に来る親戚に喜ばれると思うので、玄関に飾るのが楽しみです」といった声が聞かれました。



華やかな作品が完成!

### チャレンジ講座



12月18日(日)、ふれあい公園で、チャレンジ講座 冬のniwacamp(にわキャン)が行われました。

はじめに『スウェーデンの実演を行いました。このトーチは丸太の幹を垂直に立て、縦方向に切り込みを入れて燃やす焚火(たき)のことです。この日は見学のみでしたが、講師がチェーンソーで切り込みを入れた作製している姿を真剣に見入っていました。



オシャレなトーチのできあがり!

その後、お手軽な『ダンボール燻製器』で各自持ち寄ったさまざまな食べ物で燻製作りをしました。燻製に向くか向かないかの比較をするため、チョコレート・カブの漬物を試す方や、定番のチーズ・

ウィンナーを持ち込んだ方もいました。



美味しくできるかな?



完成!はたして変わり種の味は?

燻製をしている間、ミラ・フード館内で松ぼっくりを使い、プチクリスマスツリーを作りました。絵の具で色を付けたり、ビーズやテープを使って一人ひとりが個性あふれるツリーを作りました。



ツリー製作中

最後にオリジナル燻製の試食会を行い、参加者からは、「いい匂いで美味しい」や「家でも挑戦してみたい」といった感想がありました。

この日はあいにくの降雪でしたが、参加した子どもたちは思いがけない雪で遊べたり、トーチ焚火で暖まりながら自作の燻製も試食でき、冬のお庭キャンプを存分に味わうことができました。



素敵なおツリーのできあがり☆



### おくやみ

- |        |     |     |
|--------|-----|-----|
| 竹野入喜和子 | 86歳 | 上竹田 |
| 横水昭一   | 95歳 | 下竹田 |
| 上條湧    | 99歳 | 上竹田 |
| 逢澤育子   | 87歳 | 上竹田 |
| 上條茂    | 90歳 | 中大池 |
| 犬飼三夫   | 80歳 | 小坂  |
| 小林明美   | 74歳 | 小坂  |
| 籠田咲枝   | 82歳 | 小坂  |

# ⑬ 系車 ⑭

山形村教育委員会では、村の歴史を物語る貴重な資料を大切に保存・管理していますが、ただ収蔵庫に仕舞うだけでなく、これらの資料を「活用」することにも力を入れています。

今回の糸車では、前回の15号に引き続き、小学校の授業で活用した資料についてご紹介します。

令和4年度、山形小学校4年生の子どもたちは総合的な学習の時間のなかで『蚕』を育てるというミッションに挑戦しました。小さな蚕の幼虫のために餌(桑の葉)を探し集めて与え、ひとつの繭になるまで自分たちの手で育て上げたそうです。

担任の先生からご連絡をいただき、村でも盛んに行われていた養蚕についてより深く知ってもらおうと、12月13日(火)、教育委員会の職員が養蚕に係る資料を携えて小学校へお邪魔しました。

授業にお持ちした資料は、写真にあるような蚕を育てるための道具です。写っているのは右から「催青器」(蚕を孵化させるための道具)、「桑むぎびく」、「繭出荷籠」で、いずれも村内で実際に使われていたものです。このほかにも「種紙」や「回転族」など、卵から繭、そして出荷に至るまでに使われていた道具をお持ちしました。すでに蚕を育てた経験のある子どもたちは一つひとつの道具の使い方が何となくイメージできるようでしたが、一度にたくさんの方を飼っていたことに驚いたようで、当時の写真を見ながら蚕とともに生きた昭和の時代に想いを馳せている様子でした。また、養蚕に関連して「蚕玉様」についてもお話しました。蚕の順調な成長などを願う蚕玉様は、現在村内において16体確認されており、写真や地図、村外の事例などを交えながら説明しました。

村では、古くは江戸時代から蚕に関わる取引が始まり、昭和30年代頃まで養蚕が行われていたとされています。製糸工場があったという記録もありますが、主に繭での出荷が盛んに行われました。

教育委員会には村内各所から寄贈された、たくさんの方の養蚕関係資料が収蔵されています。今回授業にお持ちした資料はそのほんの一部ですが、かつて村の産業に大きく寄与した道具たちは、生き活きして授業を受ける子どもたちの前で心なしか誇らしげに見えました。



## ⑱ みんなの人権

### 信州こじんまり村で「他者と共に生きる」道を探る～「食の貧困」と人権の視点から

本の太木が伐採され、風通しの良い境内に変わっていました。そこに残された大きな切り株の年輪を数えながら、この村の苦楽の幾星霜を温かく見守ってきた太木たちに、思わず手を合わせている自分がいました。昨年未だに発表された『今年の漢字』は「戦」。穏やかな年明けとは裏腹に、私たちの日常は、いつ収束するとも見通せない戦争や新型コロナウイルス禍、更にはそれらと深く連動している経済連鎖の分断に悩まされています。そして、そのような世界的な要因と近いところで深く結びついている物価の高騰や「食の貧困」など『日常の生活苦』との戦い。そんななか、「分断」や「格差」を超えて「他者と共に生きる」道を探る取組みは、我が村でも静かに始まっているように思えます。例えば生きる原点でもある「食の貧困」を心配して活動している「子ども食堂」やコロナ禍で展開された手作り弁当の販売などは、「足元のすぐできることから始める」草の根的なボトムアップ型の取組みでもあります。隔週に開かれていた未来塾で自学自習を支えてくれる大学生たちとの語りも含めて、ポリユームたつぷりで「お袋の味」の昼食をほおばりながら「いつもお腹いっぱいになる。学生さんとも話せて、未来塾に来るのが楽しみ」と言う通塾生の声に、ボランティアの大人たちも元気をもらっている様子。そこには、「地域の活動は「正しさ」の前には「楽しくなくちゃ」の気概で、お互いの自己充実感を求めて、明るく取り組む老若男女のバイタリティーがあります。大人も子どもも、お互いに少しばかり心配し合い、感謝し合う光景。それは、一人ひとりのかけがえのない「いのち」を認め合い、自己有用感やお互いの「絆」のありがたさを確認し合う「優の風景」でもあります。今年こそ、コロナ禍や戦争・生活苦といった「雪」が解けて、村いっばいに子どもたちの声が響き合うような山形村になることを祈りながら、「優の風景」を探し続けたいと思います。

(令和5年1月 M. H. 記)



# 山形村俳句クラブ

## 頌春

# 川柳あららぎ

|  |         |
|--|---------|
| 雑炊を好みに調理妻の留守   | 竹野入 恒夫  |
| 認知症の母の折る鶴白鳥来   | 竹野入 美奈子 |
| あでやかな舞踊見し夜の冬 <small>ふゆ</small> 薔薇 <small>そうび</small>                   | 青木 彌生   |
| 玉霰 <small>たまあられ</small> ガラガラ回す抽選機                                      | 武居 香織留  |
| 雪晴れや稜線高く八ヶ岳  | 武居 弘    |
| 部活動 <small>ぶかつ</small> の子迎ふる駅や冬銀河                                      | 鈴木 まゆみ  |
| 幼な児は夢路たどるや雪しんしん  | 古畑 房子   |
| 地中より土偶のこゑか大根引く   | 上條 忠昭   |
| 霜柱 <small>しもむら</small> ざくざく踏みて宅配来                                      | 上條 治子   |
| 寒空に吾が子を乗せて塾通ひ  | 大村 かく子  |
| 雅 <small>みやび</small> びとは古典の舞や寒牡丹 <small>かんぼたん</small>                  | 萩上 憲治   |
| 坪庭 <small>つくばい</small> の蹲 <small>つん</small> に巻く毛布 <small>けふ</small> かな | 住吉 愛子   |
| 雪吊りに城はいよいよ落ち着けり  | 大澤 富久子  |
| 千枚の田を揺り起す鯽 <small>ぶりおこ</small> 起し                                      | 大野 今朝子  |



2023

※山形村短歌会は活動休止中のため短歌の掲載がありませんのでご了承ください。

|                                  |        |
|----------------------------------|--------|
| 小鳥たち笑いはじける残り柿                    | 篠町 貞子  |
| ハイチーズ写真の笑みは今いちだ                  | 青沼 道子  |
| 吠えようか犬もためらうマスク顔                  | 中川 功子  |
| せつないがふられずにすむ片思い                  | 古畑 弘子  |
| あずきパー甘さ控えめお前もか                   | 上條 民雄  |
| 寅年を七巡りして牙が抜け                     | 上條 光男  |
| しめ縄に幸を練りこみ固く <small>な</small> 縛う | 中村 一博  |
| 中抜きもオリンピックだと桁違い                  | 上條 善清  |
| 焦点のぼけた笑いにごまかされ                   | 上條 智佐雄 |
| やりたいな頭と体リニユール                    | 村井 敏子  |
| なぜ笑う痛さ我慢のこの膝は                    | 村井 稔   |

